

テモテ第一 4 : 6-16

「敬虔と教会」

- 4:6 これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたはキリスト・イエスのりっぱな奉仕者になります。信仰のことばと、あなたが従って来た良い教えのことばとによって養われているからです。
- 4:7 俗悪で愚にもつかぬ空想話を避けなさい。むしろ、敬虔のために自分を鍛練しなさい。
- 4:8 肉体の鍛練もいくらかは有益ですが、今のいのちと未来のいのちが約束されている敬虔は、すべてに有益です。
- 4:9 このことばは、真実であり、そのまま受け入れるに値することばです。
- 4:10 私たちはそのために労し、また苦心しているのです。それは、すべての人々、ことに信じる人々の救い主である、生ける神に望みを置いているからです。
- 4:11 これらのことを命じ、また教えなさい。
- 4:12 年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。
- 4:13 私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい。
- 4:14 長老たちによる按手を受けたとき、預言によって与えられた、あなたのうちにある聖霊の賜物を軽んじてはいけません。
- 4:15 これらの務めに心を砕き、しっかりやりなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。
- 4:16 自分自身にも、教える事にも、よく気をつけなさい。あくまでそれを続けなさい。そうすれば、自分自身をも、またあなたの教えを聞く人たちをも救うことになります。

はじめに

先週、3章14節から4章16節までがテモテに宛てられたパウロの手紙の一区切りであることを学びました。先週はその前半部分を学びましたので、今日は後半部分を学びます。

先週に学んだ個所では、偽教師への対処についてや、教会家族の中での信徒ひとりひとりのきよい生き方について、パウロがテモテに教えていました。

今週の個所では、パウロはテモテの奉仕について具体的な指示を与えています。(4 : 6-16)

この個所は、パウロからテモテへの個人的な指導です。

テモテ第一 4 : 6,12,16

- 4:6 これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたはキリスト・イエスのりっぱな奉仕者になります。信仰のことばと、あなたが従って来た良い教えのことばとによって養われているからです。
- 4:12 年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。
- 4:16 自分自身にも、教える事にも、よく気をつけなさい。あくまでそれを続けなさい。そうすれば、自分自身をも、またあなたの教えを聞く人たちをも救うことになります。

この個所は、パウロとテモテの親しい間柄を示しており、手紙全体の中でもっとも個人的な内容です。

パウロは、模範を示し、敬虔な生き方や福音について行動で示すようにと指導します。

パウロがテモテのことを特に気にかけているのは、テモテが良い指導者になるためだけでなく、テモテが他の人々を指導者として育成するためです。

私たちはこのことを理解する必要があります。

現在、OICでは2年余り前から、14名の親役のもと、弟子訓練を受けている人たちがいます。こうして訓練を受けてきた人たちの中で、親役へと踏み出す準備のできた人もいます。

そうすれば、これまで親役をしてきた人は、また他の人を訓練することができます。

これは、信仰生活で前進していく正常な姿です。

自分は親役をできないという言い訳はいくらでも思いつくでしょう。

時間がない、しっかりしていない、聖書をじゅうぶん知らない、などでしょうか。それらはどれも、正当な理由ではなく、言い訳です。

年間聖書通読を終え、OICの弟子訓練の資料で学び、暗唱聖句も大方覚え、日常生活で祈りの習慣がついていて、聖書に従っているなら、親役になる準備はできています。

問題は、聖霊によって新生していて、イエスの弟子となる覚悟のある適切な人を見つけることです。

時間を割いて一緒に過ごした人がクリスチャンとして成長するのを見られるほどうれしいことはありません。

弟子から弟子の親役になるのは大きなステップですが、聖霊の助けを信頼しようと思うなら、それが次に踏むべきステップです。

今日は、パウロがテモテにどう教えたか学びましょう。そうすることで、私たち自身も教会の指導と奉仕を理解する上で成長できるからです。

今日の個所にはおもに3つの要点があります。

1. イエス・キリストの良き奉仕者の個人生活 (6-10 節)
2. イエス・キリストの良き奉仕者の人前での生き方 (11-14 節)
3. イエス・キリストの良き奉仕者の目指す目標と目的 (15-16 節)

1. イエス・キリストの良き奉仕者の個人生活 (6-10 節)

パウロは6-10節で、イエス・キリストの良き奉仕者として個人生活にかかわる課題を3つテモテに与えています。それらの課題は、教会で指導的奉仕にあたるすべての人に当てはまります。日曜学校の指導者、賛美リーダー、弟子訓練の親役なども含まれます。

a) 神のみことばに養われる。(6 節)

パウロはテモテに、教会の信徒を神のみことばによって養い、良い教えを施すようにと語ります。

私は33年以上前、スコットランドのエジンバラでフェイスミッションバイブルカレッジに通っていたころ、学長のコリン・ペッカム師とある本を学びました。

その本は「聖書の偉大な教理」という題名でした。

学生は2年以上にわたって、この本を「キリスト教教理」の授業で学びました。

私はこの本をずっと取っておいて、過去33年以上にわたって自分自身の教えにも、人への教えにも使ってきました。

この本の素晴らしいところは、聖書の根幹部分について聖書が教えることのみを指し示してくれるところです。

個人的な解釈はほとんどありません。聖書が教えることだけが書かれています。個人的な観点が書かれていないのです。

パウロがテモテに言っているのは、「自分の意見を人に語るのではなく、ただ神のみことばを語り、神のみことばを信徒に教えなさい」ということです。

私は、数十年も前にあの聖書学校で訓練を受けるよう導いてくださった神に感謝しています。

その聖書学校は、神のみことば、祈り、個人的なきよめ、そして伝道に焦点を置いていました。

フェイスミッションバイブルカレッジの考え方は正しいと私は思います。

先週学んだとおり、神のみことばに養われるなら、偽りの教えを見分けるのに役立ちます。

パウロは、「これらのことを兄弟たちに教えるなら、」と書いていますが、それはその直前で触れていた偽教師を指しているのは明らかです。

教会の指導的立場にある人々は、偽教師について常に信徒たちに警告しなくてはなりません。

神はエゼキエル書 3 : 17-21 でエゼキエルに語られ、神の民に警告する責任を与えられました。

エゼキエル 3 : 17

3:17 「人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの家の見張り人とした。あなたは、わたしの口からことばを聞くと、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。

良き奉仕者は、偽教師について人々に警告します。

しかし、それをちゃんとするには、正しい聖書の教えを知っている必要があります。

また、教えを妥協せずに堅く守らなくてはなりません。

7節で、パウロはテモテに偽りの教えを与えるのを避けるようにと語ります。

テモテは、ジャンクフードのようなものを与えるのを避けなくてはなりません。

ジャンクフードを食べ過ぎるのは体に悪いです。

ここでパウロがテモテに注意を促しているのは、霊的に聞こえるけれども実際には神のみことばに根拠のない話や伝統です。こういったものが長年受け継がれていたのです。当時どんな話や言い回しがあつたのかは明確ではありませんが、現代版の例をひとつ挙げてみましょう。

私の子ども時代、英国では、「清潔は敬虔と隣りあわせ」という言葉がありました。

つまり、身なりをきちんとすれば、神に受け入れてもらえるということです。

人々は、きちんとした身なりで教会に行きました。

日曜日には、みんなが清潔できちんとした一番良い服を着ました。

これは、聖書の教えではなく、人々に誤解を与えました。

神は外見で私たちを判断なさいません。

とは言え、自分自身の衛生管理のために、日常的にお風呂に入るかシャワーを浴びて清潔にしておくべきです。

サムエル第一 16 : 7

16:7 しかし【主】はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。」

b) 敬虔さにおける成長 (7-8 節)

パウロはテモテに、「敬虔のために自分を鍛錬しなさい」と教えました。

どういう意味でしょう。

まず、「鍛錬」と訳されたギリシャ語の単語を理解する必要があります。

これは、「グムナヅ」という単語で体育館を意味する英単語「ジムナジウム」の語源です。

これは、訓練とか練習などという意味です。

これには、アスリートたちが自分を追い込むようなトレーニングも含まれます。

来年の7月24日金曜日には、東京オリンピックが開幕します。

世界中のアスリートたちがさまざまな競技で戦います。

もうオリンピック開幕まで1年半となりました。

それぞれの競技で世界一になったアスリートは、金メダルを獲得します。

彼らはどうやって世界で戦えるレベルに達したのでしょうか。

彼らは常に体を絞らなくてはなりません。

体に良くない食べ物は食生活から除去します。

また、厳しい肉体トレーニングを積みます。

早朝からランニングをする場合もあるでしょう。

4年近くも続くトレーニングに耐える忍耐力が必要です。

最後に、本番当日に実力を出し切らなくてはなりません。

オリンピックに向けて、精神統一する必要があります。
つまり、金メダリストになるには、肉体的にも精神的にも多くの訓練が必要なのです。
オリンピックで勝つために必要な要素はすべて、イエス・キリストの良き奉仕者の生活にも必要な要素です。
聖霊の助けを得るなら、私たちは金メダル獲得よりも素晴らしいことを達成できます。
神が私たちを用いて人を永遠のいのちへと導いてくださり、その人たちがイエスの弟子となるよう訓練させてくださるのです。

J・オズワルド・サンダースは言いました。
「霊的な方法を用いる霊的な人によってのみ、霊的な結果が出せる。」

c) 救いに焦点を絞る。(9-10 節)

ここでパウロは、「このことばは、真実であり」というおなじみのフレーズを使います。
パウロは救いについて語っていますが、おそらくテモテの救いについてでしょう。
パウロは、神に仕えるのはたいへんな務めであり、あらゆるかたちの迫害に遭うと語り
ます。
しかし、最後には天国での永遠の救いという報いを受けます。
私たちは金メダルはもらいません。それよりもはるかに素晴らしいものをいただきます。
城壁が碧玉で造られた純金の都という天の都に住まわせていただけるのです。

黙示録 21 : 18

21:18 その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。

結局のところ、イエス・キリストによる救いだけが本当に大切なのです。
ですから、イエスを信じる信仰について耳を貸してくれる人に話すのは良いことです。
いつ失われたたましいを救うために神の御手の器として用いられるか、私たちにはわかり
ません。
私たちが人を救うことはできませんが、福音のメッセージが信じる人に救いを得させる
神の力であることに変わりはありません。

2. 福音の良き奉仕者の人前での生き方 (11-14 節)

パウロは 12 節で、「信者の模範になりなさい」とテモテに言います。
その内容を説明するのに、5 つの言葉を使っています。
テモテが良い模範になるために、それら 5 つの事柄に注意しなくてはなりませんでした。

- a) ことば—話す内容が健全で模範的でなくてはなりませんでした。
イエスは、話す言葉についてマタイ 12 : 34-37 で大切なことを教えておられます。

マタイ 12 : 34-37

12:34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょう。心に満ちていることを口が話すのです。
12:35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出す
ものです。
12:36 わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなこと
ばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。
12:37 あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるの
も、あなたのことばによるのです。」

神のみことばを教える人の言葉は完全に正直でなくてはなりません。

箴言 6 : 16-19

6:16 【主】の憎むものが六つある。いや、主ご自身の忌みきらうものが七つある。
6:17 高ぶる目、偽りの舌、罪のない者の血を流す手、
6:18 邪悪な計画を細工する心、悪へ走るに速い足、
6:19 まやかしを吹聴する偽りの証人、兄弟の間に争いをひき起こす者。

b) **態度**—ヤコブは、ヤコブ 3 : 13 で同じことを教えています。

ヤコブ 3 : 13

3:13 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい。

ペテロ第一 1 : 15

1:15 あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。

c) **愛**—聖書の教える愛は、人間的な愛とは大きく異なります。
聖書の教える愛は、自己犠牲を払って人に仕える愛です。その人に対してどう思っているかにかかわらず、仕えるのです。
自己犠牲を払って仕える奉仕者は、仕えるように召された人々のために時間と労力を使います。
そして、その人たちが主にあって強められ建て上げられるために、献身的に仕えます。

d) **信仰**—パウロはここで、信じるのではなく、誠実さについて語っています。

コリント第一 4 : 2

4:2 この場合、管理者には、忠実であることが要求されます。

e) **純潔**—ここで使われたギリシャ語は「ハグネイア」です。この単語はおもに、行動と意思の両方における性的なきよさを指します。
これは、長老と執事の資質としても挙がっていました。長老と執事はひとりの妻の夫でなくてはなりません。つまり、配偶者のみと性生活を持つ人でなくてはならないということです。これは、クリスチャンの指導者だけでなくすべてのクリスチャンにとっても非常に大切なことです。

14 節には、与えられた賜物を「軽んじてはいけません」とあります。

「軽んじてはいけません」と訳された部分のギリシャ語を読むと、テモテが奉仕をあきらめようとしていた可能性を示唆します。

テモテ第二 1 : 3-15 を読むと、テモテがエペソで感じていたプレッシャーに対して、パウロがアドバイスしています。

テモテ第二 1:3-15

1:3 私は、夜昼、祈りの中であなたのことを絶えず思い起こしては、先祖以来きよい良心をもって仕えている神に感謝しています。

1:4 私は、あなたの涙を覚えているので、あなたに会って、喜びに満たされたいと願っています。

1:5 私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。

1:6 それですから、私はあなたに注意したいのです。私の按手をもってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。

1:7 神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。

1:8 ですから、あなたは、私たちの主をあかしすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともしてください。

1:9 神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、

1:10 それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされたのです。キリストは死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示されました。

1:11 私は、この福音のために、宣教者、使徒、また教師として任命されたのです。

1:12 そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。

1:13 あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛をもって、私から聞いた健全なことばを手本にしてください。

1:14 そして、あなたにゆだねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖霊によって、守りなさい。

1:15 あなたの知っているとおりに、アジアにいる人々はみな、私を離れて行きました。その中には、フゲロとヘルモゲネがいます。

テモテを励ますため、パウロは奉仕を離れない理由を3つ挙げました。

まず、テモテに与えられた賜物です。

神は、当時のテモテの奉仕のためにと特別な賜物を与えてくださっていました。

テモテの賜物には、伝道、説教、教え、リーダーシップなどがありました。

私たちは新生すると、神によって奉仕のための備えをいただきます。私たちに課せられた課題は、その賜物が何であるかを見いだし、その道を進むことです。

次に、テモテの賜物に関する周囲からの承認です。

テモテの賜物は、長老たちから認められていました。

神に与えられた賜物を周囲から認められると、その賜物を放棄しにくくなります。ですから私たちは神から与えられた賜物について互いに励まし合うべきです。

最後に、テモテの賜物は、長老の按手をとおして与えられたという励ましです。

これは、神に仕える霊的な人々によって認められた公式の役職です。テモテは、奉仕を続ける責任を公に負っていたのです。

この点は、牧師や長老を按手によって正式に授任することの重要性を示します。

3. 良き奉仕者の目指す目標と目的 (15-16 節)

パウロは、このふたつの節でこの部分を締めくくります。

その中で、生き方と教えに注意するようにとテモテに教えます。

そうすることで、テモテの救いも、テモテの純粋で正しい教えを聞く人たちの救いも確かなものとなります。

最後に、テモテは忍耐しなくてはなりませんでした。それは、彼の教えを聞く人たちがイエスの忠実な弟子と成長するためです。

どのような奉仕であれ、それは自分自身のためではありません。人のため、そして神の栄光のためです。

けれどももちろん、私たち自身も祝されたと感じるはずですよ。